

小栗美作 越後国高田藩家老。辣腕ぶり發揮して藩財政に貢献するも、家臣ら反発で"越後騒動"となり、切腹に。

おぐりみまさか

人身売買禁止1626 = 越後国高田藩で、家老小栗正高の長男に生まれる。のち、美作守に任ぜられ美作が通称となる。

徳川秀忠没・1632 = 6歳 :

参勤交替始・1635 = **9歳** :

家光鎖国完成1641 = 15歳 :

明滅亡・・・1644 = **18歳** :

徳川家光没・1651 = 25歳 :

野郎歌舞伎始1653 = **27歳** :

明暦の大火・1657 = 31歳 : この年、明暦の大火で、江戸の藩邸が焼失して、財政難が進むも、
江戸での藩士の浪費は止まらず、

松平信綱没・1662 = **36歳** :

諸宗寺院法度1665 = 39歳 : *地震で圧死した父の跡を継いで筆頭家老となり、家禄1万7000石を譲り受け、藩政の実権を握ると、
酒井忠清大老1666 = 40歳 : *幕府から借り受けた5万両の半分を崩壊した城や多くの町家の復興に用い、残りを間口ごと均等に分配して町民を救済するなどして、城下町を再整備する一方、地震で危機的状況に近づいた藩財政を建て直すべく、知行地収入であった銀を藩に納めさせたのを皮切りに、口留番所を設置して流通を取締まり、酒造を許可制にして税金を課し、植林を進め、多数の架橋や直江津港と河川水運を結びつけるなどして交通網を整備するなど、次々とさまざまな改革を次々と実施、
・・・1671 = **45歳** : *頸城郡北浦田・西浦田両村の検地で、山の陰や湿地で田畑になり難いところまで耕地に取り立て、また田畑の位付(良否による等位決定)で多くは一段上の位に定め、

・・・1674 = 48歳 : *10年前の地震で新田地帯の排水路が決壊し、この年になってもなお、水が引ききらない状態だったため、河村瑞賢を招いて指導を受け、河道を変更。この年、藩主光長の嫡子が病死したため、継嗣に光長の甥を推薦、異母弟を推す家臣らとの対立が始まる。

・・・1677 = 51歳 : 年貢収納に当り、代官以下に不正が無いよう厳命、

藤十郎登場・1678 = 52歳 : *藩が40年余かけてきた新田開発を完成させて、1万6千石余りを生み出すなどして、藩の表高26万石を内高36万石にまでしたが、政策の実施には辛辣で強引な面があったため、他の重臣の反感がつのり、
越後騒動・・・1679 = 53歳 : *これに藩主松平光長の継嗣問題と絡んでお家騒動(越後騒動)が起き、

徳川綱吉將軍1680 = **54歳** :

天下一禁止・1681 = 55歳 : *將軍徳川綱吉の親裁で、切腹となった。

翌年の「天和検地帳」をみると、頸城郡や魚沼郡の山村では"退転"百姓が異常に多いが、退転の理由は自然災害よりも、10年前の、検地の厳しさが大きな原因となっていると考えられる。